

都市再生整備計画 事後評価シート

川越市中心三駅周辺地区

令和4年2月

埼玉県川越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	川越市		地区名	川越市中心三駅周辺地区			面積	194.2ha		
交付期間	平成29年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	3,330百万円	国費率	49.8%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
		基幹事業	道路：市道0009号線、市道1526号線、川越駅東口駅前広場（市道0007号線）、地域生活基盤施設：川越駅西口歩行者用デッキ、川越駅東口駅前広場サイン、高質空間形成施設：川越駅西口歩行者用デッキシェルター、川越駅東口歩行者用デッキ床タイル、川越駅東口歩行者用デッキ歩行支援施設、川越駅東口駅前広場公衆便所、川越駅東口駅前広場エスカレーター										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	川越駅西口歩行者用デッキエスカレーター、子育て安心施設（乳幼児一時預かり施設）、子育て安心施設（子供送迎センター）、子育て安心施設（地域包括支援センター）				事業の具体化に伴い、平成29年度に計画変更して追加			当初より当該事業を見込んで指標を設定しているため影響なし			
		提案事業	なし										
	交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	影響なし							
		変更	平成29年度～令和2年度（第2回変更～） 平成29年度～令和3年度（第4回変更～）										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）
				基準年度		目標年度		モニタリング	評価値				
指標1		地区内人口	人	20,948	H28	21,000	R3	—	21,838 (R3)	○	あり なし	都市基盤や施設の整備を行い、地区内の利便性や安全性が向上し、魅力が高まったことにより人口の増加につながった。	令和4年5月
指標2		地区内の鉄道・路線バス利用者数	人	112,349,964	H26	113,000,000	R3	—	119,401,649 (R1)	○	あり なし	川越駅周辺での交通結節点整備により利便性が向上したこと、北部市街地での観光イベント等の開催により利用者が増加した。	令和5年6月
指標3		地区内の歩行者・自転車通行量	人	120,464	H28	144,000	R3	—	121,054 (R1)	△	あり なし	計測時は供用開始まで至らない事業があり目標値に届いていないが、供用を開始した施設等については、一定の通行量に貢献があったと考えられる。	令和4年5月
指標4		都市機能誘導区域（三駅を中心とした周辺）内の都市機能誘導施設立地数	件	25	H29	29	R3	—	30 (R3)	○	あり なし	子育て安心施設や障害者基幹相談支援センターを整備し、民間でも施設整備が行われたことから立地数が増加した。	令和4年4月
指標5		立門前界限の歩行者・自転車通行量	人	15,840	H29	16,879	R3	—	16,327 (R2)	△	あり なし	立門前通りの美装化や民間商業施設の開業により通行量が増加した。	令和4年5月
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標6	観光客の平均消費額	円	4,073	H27	5,100	R3	—	4,034 (R2)	×	あり なし	新型コロナウイルスの流行によって、店舗を含めた屋内での消費から屋外の散策へと行動に変化が生じたことで減少したと考えられる。	令和4年4月
	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	地区内商業地の地価公示価格（平成28年を100とする）	%	100	H28			—	108.5			県内商業地の平均(104.8%)を上回る上昇であり、地区の魅力向上を確認できた。	—
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	・令和2年度に川越駅西口市有地利活用事業により開業したU PLACEは、当初想定した集客数を新型コロナウイルス感染症の流行下においても上回っており、地域のにぎわい創出に貢献している。 ・子育て安心施設においては、乳幼児一時預かりの利用が進み、地域の子育て支援に貢献しているほか、地域包括支援センターでは新しく整備された相談室等を活かし、相談支援体制が強化されている。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				指標1「地区内人口」については、年代別の動向にも着目し、今後のまちづくりへの反映を検討する。		
	住民参加プロセス		川越駅東口駅前広場改修説明会、子育て安心施設整備説明会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				施設整備後も、今後の利活用に向けて、地元関係者の協力を得られるように、必要に応じて適宜実施する。		
	持続的なまちづくり体制の構築		エリアマネジメントの取組みとして、地域防災コンサートを開催。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				事業実施主体でもあるウェスタ川越の事業として、地元と協力して、今後の取組みを検討する。		

様式2-2 地区の概要

川越市中心三駅周辺地区（埼玉県川越市）都市再生整備計画事業の成果概要

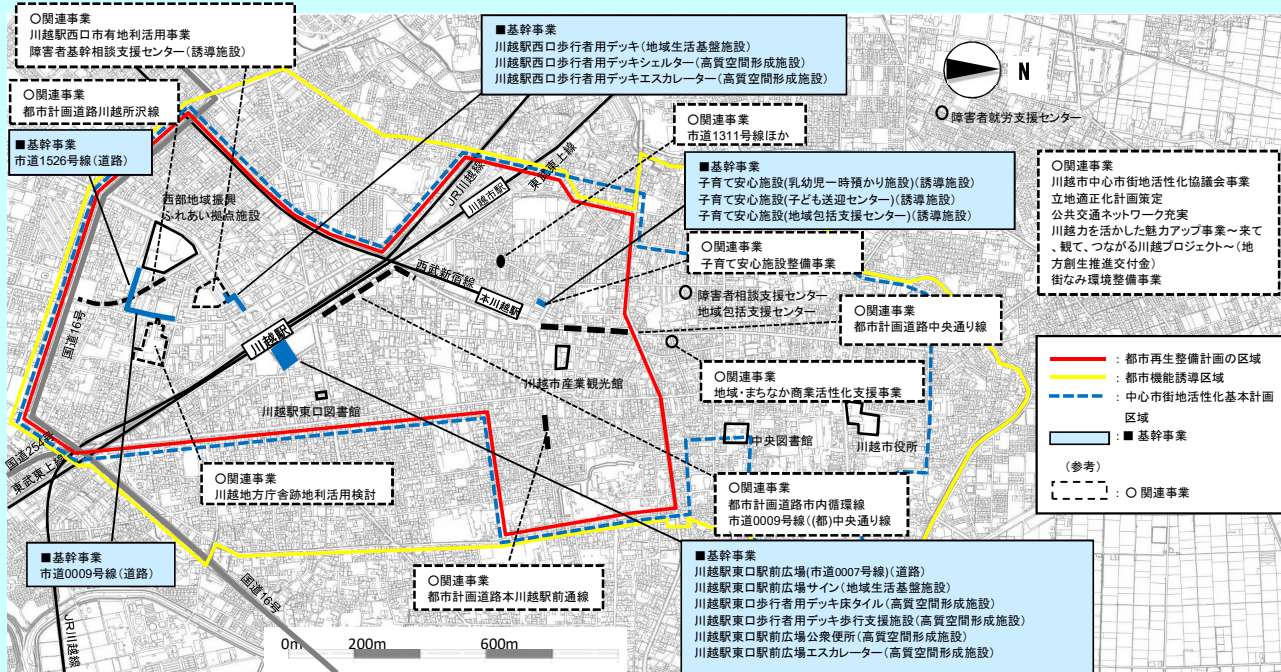
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 公的不動産活用を中心とした、誰もがいつまでも住みたくなるまち、交流とにぎわいのあるまちの実現 小目標①: あらゆる世代の快適な生活を可能とする居住誘導と公的不動産活用を中心とした都市機能の集積 小目標②: 公共交通の利便性向上による、本地区と周辺都市拠点及び居住地の円滑な移動の確保 小目標③: 魅力あるまちなみづくり、商業活性化支援によるにぎわいの創出		地区内人口	単位：人	20,948	H28	21,000	R3	21,838	R3
		地区内の鉄道・路線バス利用者数	単位：人	112,349,964	H26	113,000,000	R3	119,401,649	R1
		地区内の歩行者・自転車通行量	単位：人	120,464	H28	144,000	R3	121,054	R1
		都市機能誘導区域（三駅を中心とした周辺）内の都市機能誘導施設立地数	単位：件	25	H29	29	R3	30	R3
		立門前界限の歩行者・自転車通行量	単位：人	15,840	H29	16,879	R3	16,327	R2
		観光客の平均消費額	単位：円	4,073	H27	5,100	R3	4,034	R2



川越駅西口歩行者用デッキ



川越駅西口市有地利活用事業
施設名『U PLACE』





子育て安心施設
施設名『すくすかわごえ』



川越駅東口駅前広場

まちの課題の変化

- ・いつまでも住みたくなるまちを目的として施設整備を進めた結果、地区内の人口は増加し、都市機能誘導施設の立地数においても当初の想定を上回る立地があった。
- ・交通結節点である川越駅周辺では、利用者の利便性及び安全性が向上したことで、鉄道、路線バスの利用者数が増加した。
- ・三駅周辺の低未利用公的不動産を活用し、拠点整備を行ったことによって、新たに発生した交通需要に対する都市基盤の整備が課題となっている。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- ・持続可能なまちづくりに向けては、地区内に都市機能誘導施設を維持しつつづけるために、施設の連携強化や利用促進に向けた取り組みを行う。
- ・地区内に残る低未利用公的不動産においては、民間活力を含む様々な方法を検討して、魅力あるまちなみづくりのための土地活用を図る。
- ・回遊性向上のため、交通結節点と各拠点施設、各拠点施設間をつなぐ道路を整備し、魅力ある居心地の良い歩きやすいまちづくりを進める。
- ・県南西部地域の中心となる地域でもあり、多くの人が集う場所であることから、災害時に避難可能なオープンスペースの確保や、延焼防止を目的とした幅員の広い道路を整備する。